

つながるかながわ、本格稼働！

「一般社団法人市民連帯経済つながるかながわ」は、非営利市民事業とワーカース・コレクティブ※¹（働くひとの協同組合）を真ん中に置いたまちづくりを目指して昨年10月に誕生し、活動を始めています。

今号では共同代表の3人※²に、「つながるかながわ」への思いをききました。

※¹ 以下、ワーカース・コレクティブをW.Coと表記します

※² つながるかながわは3名の代表理事を置く「複数代表制」を採用しています

神奈川ワーカース・
コレクティブ連合会

つながる
かながわ

ワーカース・
コレクティブ協会

生活クラブ
神奈川

協同労働の理念を真ん中に

1989年に設立された神奈川W.Co連合会は、W.Coが実践しているディーセントワーク（人間らしい働き方）を社会に広げ、一人も取り残さない社会の実現に向けて活動してきました。

2022年に念願の労働者協同組合法が施行されたことをきっかけに、私たちはその役割を「つながるかながわ」へと移行し、これからは「つながるかながわ」として協同労働の理念を真ん中に置いたまちづくりを進めていきます。

誰もが誇りをもって働くまちを目指して

W.Co協会は、社会的に不利な立場の人たちへW.Coの働き方と理念を活かした就労支援を行っています。私たちの取り組みには多くの自治体から共感が得られ、今では多様な官民連携事業が生み出されています。

これからも、誰もが誇りをもって働くことができるまちづくりを目指し、3年以内の「つながるかながわ」との合流を見据えて、共に活動していきます。

篠崎 みさ子さん

(生活クラブ生活協同組合・神奈川理事長)

木村 満里子さん

(元・神奈川W.Co
連合会理事長)

上田 祐子さん

(NPO法人
W.Co協会理事長)

人の繋がりを大切にした 地域社会を築く

W.Coは1982年に、生活クラブの業務委託を受けることから始まりました。私たちは協同組合というたすけあいの仕組みに自ら参加し、コミュニティに必要なモノやサービスをコミュニティ価格(自分たちが使いたい

ときに使える価格帯)で提供し、豊かな地域社会を実現していきたいという共通の目的をもっています。

人の繋がりを大切にした持続可能な地域社会を築くため、「つながるかながわ」として取り組んでいます。

私たちの 取りくみ

つながるかながわの事業は3つのセクションに分かれ、それぞれのセクションが連携しながら活動しています。
各セクションで現在実施している取り組みや、これから予定されている取り組みを紹介します。

1. 支援セクション

W.Coに関する支援を行います

事業をするうえで起こるさまざまな問題や課題の**相談窓口**です。

必要に応じて、専門性の高い弁護士・税理士・社労士などへの初期相談にもつないで、解決に至るように伴走します

起業したい人や働きたい人を**支援**します

今後、人材バンク、技能登録バンクの立ち上げなど、今までのW.Co活動を通じて培った事業運営のノウハウや技術を、**次世代へ引き継いでいく**ための事業も予定しています

W.Coスクールを開催します。事業を運営していくための運営講座や各種制度の講座を設けます

県内を5つに分けて各地域のまちづくりを推進する「**まちづくり会議**」(隔月)、「**地域W.Co連携会議**」を開催します

神奈川県労働者協同組合**促進協議会**へ参加します
(厚生労働省モデル事業)

2. ネットワークセクション

地域を豊かにする活動を広げるために、会議運営や事務局事業、調査活動を行います

生活クラブ組合員の寄付金でつくる「**生活クラブまちづくり基金**」の選考と助成を行います

孤独孤立対策支援における地方での官民連携プラットフォーム形成に向けた**調査事業**(内閣府)を行います

3. 事業セクション

自治体とのパートナーシップによる委託事業など、政策提案に繋ぐ事業を実施します

NPO法人W.Co協会(つながるかながわへ事業移管に向け準備中)のスキルを活かし、**社会的連帯経済の構築**に必要な「地域のニーズに対応した事業」を自治体と市民とともに推進します

生活クラブが実施している**居住支援事業との連携**を検討します

つながるかながわが実施する事業を通して、**調査研究や政策提案**につなげます

File.1

アープレ
認定NPO法人W.Co 樹

介護事業所・食事サービス

高齢者、障害者、その他手助けが必要な人に対しての家事介護支援サービスや、介護保険法に基づく訪問介護サービスをはじめとして、小さな家だからできる、普通の家だからできる”自分のもうひとつの家”のように過ごせるデイサービスを行っています。また障害者の方が活動する地域作業所での昼食作りなどの活動もしています。

磯子駅から坂道を登ると「ワーカーズ・コレクティブ」の看板があり、広い庭と白を基調とした窓の多い一軒家が現れます。そこが樹(以下、アープレ)です。アープレは2001年に「樹木がしっかりと根をはり、力強く大きく枝をのばしていくように地域に根付き、『自分らしく生きていくために必要なサービス』を生みだして育てていきたい」という思いを込めて設立されました。

出迎えてくれたのは理事長の関富美子^{せき ふみこ}さん(写真右)と事務局長の建石比奈子^{たていし ひなこ}さん(写真左)。「とても素敵な建物ですね」と伝えると「アープレに賛同してくださっている利用者さんから、『自宅を自由に使ってください』とお申し出いただきました。認定NPOになり、地域のみなさんからの寄付などで支えられています」と関さん。地域とも良い関係が築けているようです。

関さんは生活クラブの組合員で、神奈川W.Co連合会で理事の経験もあります。また、アープレはW.Co協会の会員として就労支援実習の受け入れも行ってきました。一時、事業の事情で連合会から離れていましたが「つながるかながわ」が立ち上がると聞き、W.Coの仲間や生活クラブとのつながりを大切にしていきたいと加入してくれました。



関さんがW.Coとして、地域のニーズに寄り添った事業展開をしていた頃は「『地域に市民参加型の事業を創っていききたい』と、ワーカーズ同士、惜しみなく情報を共有し、規約を作り、ボランティアグループや地域の人たちを巻き込んで、まちづくりをしていくんだという気概と連帯の強さがあった。大変なこともあったが、今振り返るととても楽しかった。W.Coという事業が、その名称で信頼を得られるようになったのは長く取り組んできた成果。これからも新しい世の中での仕組みを作っていきたい」と思いを語ってくれました。

最後に改めて門の外からアープレを眺め、まさに名前の由来通り、地域にしっかりと根を張り、地域から支えられながら地域を支える、樹木のような場所だと感じました。

さらに詳しい記事は、つながるかながわのホームページで公開しています。

基本情報 認定 特定非営利活動法人W.Co樹

所在地 〒235-0019 横浜市磯子区磯子台21-24

TEL 045-349-3026

設立 平成13年(2001年)10月



取材メモ

日差しの入るリビングでアクティビティ。まるで旧来の友人同士が集まって楽しんでいるような、とてもアットホームな空間でした。

田中入馬 (たなか いるま)

さまざまなNPOで計10年働き、生活クラブに入職。矢向センターから政策調整部へ。昨年から「つながるかながわ」の事務局長に就任しました。



立ち上げ準備中 ワークス・コレクティブのご紹介



パチャmama

湘南エリアで新しいW.Coが立ちあがります。
いいだ あつこ
代表の飯田厚子さんにお話を伺いました。

ご協力・応援を
よろしくお願いします！



飯田厚子さん

藤沢市のUR都市機構敷地内に、生活クラブ神奈川が湘南生活クラブと共にローカルSDGsの実践の場となる拠点づくりを進めています。私たちはそこに、地域のみなさんの居場所になるカフェを開こうと準備しています。メンバーは11名。みんなで話し合っていて決めていくことを大事にしています。

月に2～3回の会議で栄養バランスの良いレシピ開発などに取り組んでいます。2月に調理研修や団体運営の学習会を行い、4月には任意団体として活動を開始する予定です。

W.Coを選んだのは、自分たちが求める働き方や地域貢献への思いなどが、W.Coらしいと感じたからです。今後は賛助会員を募り、おおぜいの力で事業を進めていきたいと思っています。

「パチャ mama」名前の由来…

パチャママはアンデス地方の古い神話に登場する女神で、母なる大地を意味します。この場所で、地に足をつけてカフェをやっていききたいという思いから名付けました。ここが地域の皆さんにとって身近な場所になり、ここから地域の人が行き交い、コミュニティが広がることを目指しています。

つながるかながわは W.Co パチャmama の 立ち上げをサポートしています

事業予定地の近隣には、地域の方がお茶やランチをする場所がないそうです。飯田さんは「ここは丘の上なので、高齢の方は降りていくのも大変。カフェだけでなく野菜や果物の販売など、地域の期待に応えていきたい」と抱負を語ってくれました。

生活クラブまちづくり基金への 参加をお願いします！

生活クラブまちづくり基金は、活動の趣旨に賛同する生活クラブ神奈川の組合員からの寄付（毎月100円）で成り立っています。私たちつながるかながわが、地域生協エリア毎に審査委員会を開催し、基金の使途について決定しています。（公財）かながわ生き生き市民基金への寄付に加え、地域のまちづくりのための助成に活用されます。

豊かな地域づくりをめざして生活クラブまちづくり基金に参加しましょう！

「福祉たすけあい基金※」は2024年10月、「生活クラブまちづくり基金」として生まれ変わりました

※福祉たすけあい基金

「地域福祉のための活動に使う」という目的に限定して、2003年に設立した基金です。2024年までの約20年間で寄付総額は2億3,300万円、551団体に助成しました。



「生活クラブまちづくり基金」について
詳しくはこちらから

編集
後記

最近「まちが失われている」と感じます。地域のお店がつぶれ、同じ薬局やコンビニばかり。スマホがあれば、人と一切関わらずに生活ができます。つながるかながわが、地域性と人間関係の豊かな「まちづくり」を進められるといいなと思います。（田中入馬）